

みんなで楽しむ音楽鑑賞会

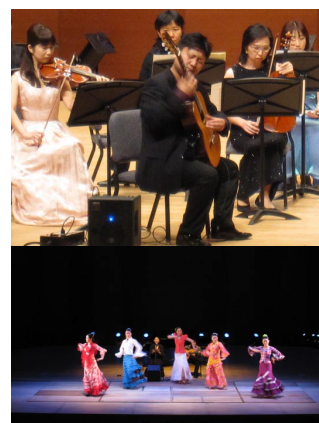
「第3回 わくわくコンサート」

代表者 堀田真央（教育学研究科1年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、以下の3点を目的としています。

- (1) 一般の音楽会に参加することが難しい児童と保護者、サポートの必要な方等を対象とした音楽鑑賞会（「第3回 わくわくコンサート」）を運営し、音楽鑑賞の機会を提供するとともに、「共生」の場の提供を行う。
- (2) 運営に関しては、香川大学の学部を越えた連携を行うとともに、サークル、卒業生・修了生、教員、地域の方々の協力も得ながら行う。
- (3) 昨年度の「第2回 わくわくコンサート」をさらに改善し、継続的に実施する。



2. 実施期間（実施日）

平成21年4月	「第3回わくわくコンサート実行委員会」の活動を開始
7月	学生支援プロジェクト事業採択
8月	演奏曲目の確定と出演者への協力依頼 フラメンコ団体の協力が得られる。 不足の事業費獲得に向けて活動を行う（企業訪問等）
10月	隔週の実行委員会議、各チームによる活動の本格化・後援申請開始
12月	チラシ完成
平成22年1月	チラシ配布 特別企画・託児・介助等サポートの受付開始 [広報活動] ・ラジオ RNC 「気ままにラジオ～雨の日晴れの日曇りの日～」内 「ラジオカーリポート」生出演 RNC 「ミュージック・イン・ランチボックス」生出演 ・テレビ NHK 「ゆうどき香川 ニュース 610」出演 ・新聞 山陽新聞
2月6日	みんなで楽しむ音楽鑑賞会 リハーサル・最終打ち合わせ
2月7日	みんなで楽しむ音楽鑑賞会 本番

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本年度の「第3回わくわくコンサート」の内容は昨年度と同様に、

- ・ プレイベント（ギター演奏・箏演奏・児童文化研究会による手遊び・スペインクイズ・YAMAHA 協力による楽器と書籍展示販売）
- ・ 音楽鑑賞会（内容：ピアノ連弾「スペイン」、フラメンコ舞踊、アランフェス協奏曲、室内楽による「カルメン」組曲）
- ・ おまけイベント（楽器体験・スペインクイズ）

としました。そして、本年度は次のことを主に改善して行いました。

（1）警備の強化

昨年度は予想を超えた入場者数であり、安全を確保するための警備人員がかなり少なかったため、少し混乱が起きていました。本年度、実施に当たってはホールの担当の方から、警備について改善を求められ、アドバイスをいただきながら改善しました。

具体的には開場の約1時間前に実行委員の警備担当者やボランティアを配置し、入場待ちのお客様に整列を呼びかけたりして入場までの混乱がないようにすることや各階の客席にボランティアを配置することを行いました。

（2）特別企画の実施

第1回、第2回とも多くのお客様に来ていただき満足していただいた一方、いろいろなお客様が集まり、静かに聴きたいという要望にはお応えできていませんでした。本年度は、その要望に応えるべく、ホールとは別の場所（サンポート7階、第1リハーサル室）において、特別企画2つを用意しました。



プレイベント時には、クラシックギター奏者の上垣内寿光さんによる「ギターミニリサイタル」を定員100名で行い、おまけイベント時には打楽器奏者の松倉利之さんによる「ワークショップ～スペイン風～」を定員20名で行いました。どちらも応募型により、参加者を募りました。



なお、本年度は新型インフルエンザの流行があったため、アルコール消毒液を各受付付近に設置するなどの対応を行いました。

本年度の成果として、来場者は900人と昨年度よりは少なかったものの、多くのお客様に落ち着いて鑑賞できる場所を提供できたように感じています。また、いろいろなメディアを通して広報活動を行わせていただいたのもあり、老若男女様々な年齢層に広がってきているように感じました。音楽鑑賞会当日にも多くのお問い合わせをいただき、この事業に関心を向けていただけているということも感じました。

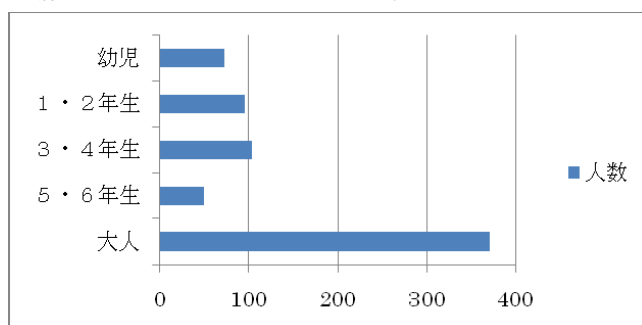
本年度の改善点である警備の強化は上手く機能させることができ、混乱なくお客様をご案内することができました。特別企画については、事前の応募だけでは定員に達しなかったため、当日、入場待ちのお客様に声をかけて特別企画についてご案内をし、整理

券を配布しました。特別企画を始めとして、プレイベント・おまけイベント・演奏会の全てにおいて満足していただけたのではないかと感じました。

本年度も来場者へのアンケートを実施しており、以下滝川・笹沼によるアンケートの分析結果を抜粋で紹介します。

アンケート及び来場者の反響

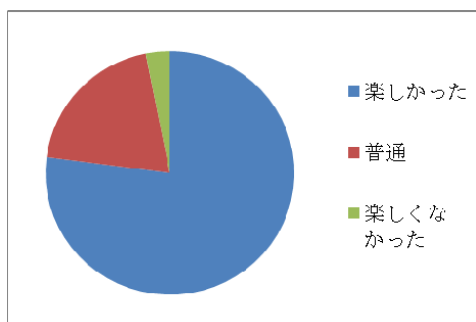
コンサートの来場者に対してアンケートを行った。その結果、無回答のものがあったが合計 691 名の方に協力していただくことが出来た。



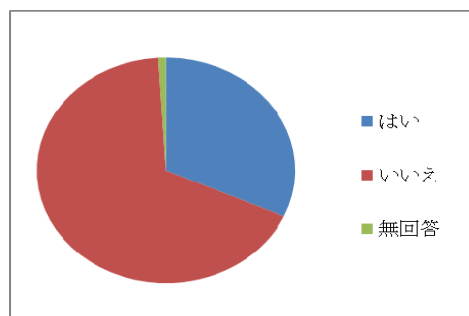
○アンケート学年別内訳
保護者の方がほとんどであったが、子どもたちも沢山自由に記述してくれた。アンケート用紙もプログラム同様、学年別に用意した。

子どものアンケートの結果

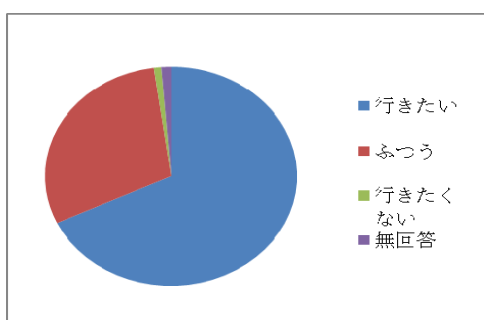
1. コンサートは楽しかったですか。



4. 去年もコンサートに来ましたか。



5. 来年もコンサートに来たいですか。

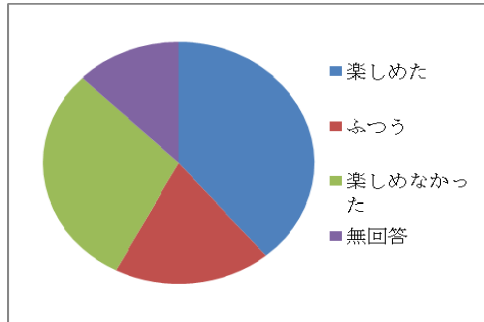


さらに...

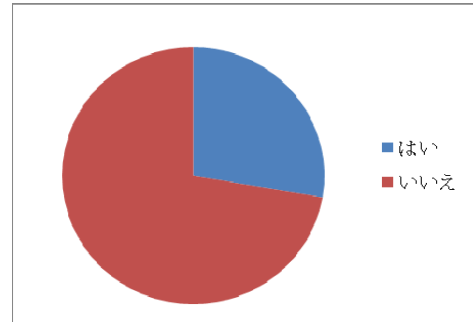
- 高学年よりも幼児・低学年の方が満足度は比較的高かった。
- イベントに参加した人や去年参加した人は、来年もコンサートに行きたいという意見が多かった。
- コンサートの曲目で2番目「カルメン」を気に入ったと答えた人は、来年もコンサートに行きたいという意見が多かった。

保護者のアンケートの結果

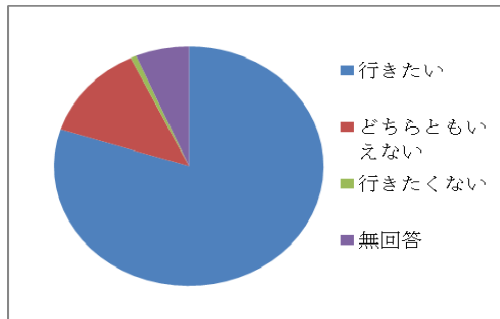
3. コンサートはお楽しみいただけましたか。



6. 去年もコンサートに来ましたか。



7. 来年も行きたいですか。



さらに・・・

○保護者の方は、子どもが満足していたら満足するという傾向がみられた。

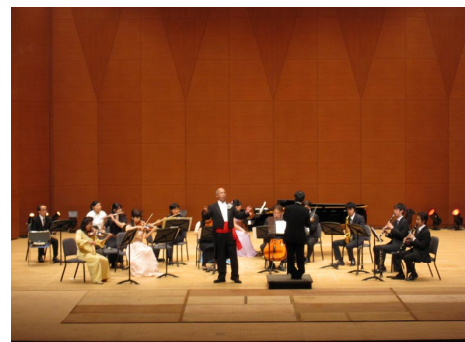
○ボランティアスタッフの対応に満足された方はコンサートにも満足していた。また、コンサートに満足された方は来年も行きたいという意見が多かった。

○おまけイベントについては演奏終演後の帰り時ということもあり、回答率・回収率が低かった。また、この項目については保護者の方にのみ回答を求めたが、参加された方と参加されなかった方とでは来年も行きたいという意見に大きな違いは見られなかった。

このように、子どもと保護者（大人）の満足度には違いはあるが、子どもも保護者の方も来年度も行きたいと思っている方が多くいるというのは大変嬉しい結果です。また、3回目を迎え、リピーターがいるということも分かりました。他のアンケート項目により親子での参加に加え、友人同士や一人で参加して下さった方がいるということも分かりました。

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、どの人においても演奏会を気楽に楽しんでいただけたと考えています。コンサートの出演者は本学の教員をはじめ、OB・OG、さらに国内外で活躍するプロの奏者であり、その演奏を無料で聴くことによって、音楽に対する興味の深まりや他の演奏会にも行ってみたいと思うきっかけを作ることができたのではないかと考えます。



そして、おまけイベントの楽器体験や特別企画のワークショップにおいて、普段触れることのない楽器を間近で感じたり、プロの奏者より演奏を教えてもらうことができた

りする機会は多くないので、本事業により、音楽をより身近に感じられたと思います。

また、「3. 成果の内容及びその分析・評価等」で述べたように老若男女が集える「共生」の場所として更に機能することができたと考えます。地域の方にボランティアでの参加を募った際に、昨年度もボランティアで参加してくれた小学生が今年度もボランティアとして参加してくれ、さらにそのご家族もボランティアとして手伝っていただきました。このように、ボランティアやイベントに参加することによって、家族で一緒に同じ体験をし、体験して感じたことを家族内の会話で共有できるというきっかけを担うことができたのではないのでしょうか。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクト事業は3年連続で継続することができたため、構成員の学年や学部
の幅も広がってきました。そして、それぞれの専門性を生かしながら、昨年も参加して
いた者は去年の経験を生かしながら、初めて参加する構成員にアドバイスをを行うという
体制ができました。事業を行っていく際にスムーズに仕事を行うためにコミュニケーション
の大切さや協力するということの重要性を感じたと思います。構成員一人ひとりが
各部門の責任者であったため、計画力・判断力・実行力が求められ、そして、来てくだ
さる方々のことを思いながらよりよい方向へと向かうためには常にどうしなければならない
のかと考えることが必要でした。そして、本事業を成功させようと責任感を強くも
って取り組めたと思います。また、実施するにあたり、いろいろな仕事のプロの方々と
関わることができました。それぞれの方が仕事をするにあたり信念を持ち、楽しみなが
らも、責任感を持ち遂行していく姿を目にしました。これから社会人として出て行く私
たちのキャリア形成についても考えさせられるきっかけとなりました。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本年度は、運営面において過去に比べてスムーズに行うことができたと感じましたが、
まだまだコミュニケーションを十分に取れてない部分もありました。

今回の大きな反省は、10月から行っていた実行委員会で構成員全員がそろうことが少
なかったため、それをうまく補っていけなかったということです。今回は参加できない
メンバーにはメールにて実行委員会の内容を伝えるということを行っていましたが、や
はりメールだけでは伝わらないことも多くありました。また、それぞれの担当を超えて
協力しなければならないことも多くあるため、担当者が揃う時間を実行委員会と別に設
定をし、打ち合わせを行う必要性を感じました。

そして、今年初めて参加する構成員からは、当日の流れを十分に把握できていなかっ
たために学生ボランティアの方々に迷惑を掛けてしまった、という声を聞きました。継
続を考えた際、前年度どうということを行ってきたかということ各担当で記録して伝え
ていく作業をしなければならないと思っています。

実施後の反省会において、一人ひとりが課題を感じながらも、やってよかったと構成員
全員が発言していました。経験の違いがありながらもそれぞれが達成感を感じることが
できたということは、自分の責任を十分に感じ、仕事を全うできたというあらわれで

はないでしょうか。本事業において、学業だけでは感じられない自分の未熟さを痛感し、事業を通して成長することができたと思います。

本事業は例年同様、いくつもの企業をはじめとして、多くの皆様にご協力をいただきました。多くの方々のご協力があったからこそ成立する事業だと感じています。また、80名を超える学生ボランティアが参加しなければ、来てくださる方々に安心して楽しめる場所を作り上げることはできなかったと思います。

学生ボランティアとして参加してくれた仲間や友達、卒業・修了してもなお本事業を行うことを応援してくれた先輩方、アドバイスを下さった先生方など、この事業にかかわっていただいた全ての皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

7. 実施メンバー

代表者	堀田 真央（教育学研究科 1 年）		
副代表	料治 和典（教育学部 3 年）		
構成員	畦田 芳広（教育学部 4 年）	滝川 育実（教育学部 4 年）	
	藤井 真由美（教育学部 4 年）	半田 宗也（工学部 4 年）	
	石橋 尚（経済学部 3 年）	江口 紘子（経済学部 3 年）	
	倉田 祐子（教育学部 3 年）	笹沼 加奈（教育学部 3 年）	
	野菅 竜樹（経済学部 3 年）	松永 奈美（教育学部 3 年）	
	光成 麻里子（教育学部 3 年）	南 智子（教育学部 3 年）	
	山神 剛（教育学部 3 年）	渡辺かおり（教育学部 3 年）	
	教員代表	青山 夕夏（教育学部音楽領域）	